

対策案の具体化・実施について

[第1回検討会についてのアンケート結果等から]

- 対策は、【情報対策】【連携強化】【データの蓄積・モニタリング】【利用コントロール】【人材・費用の確保】【ハード対策】の6つに分類される。
- 第1回検討会で提示した対策案リストの内容で対策メニューは網羅されている。※いくつかの新たな提案あり→資料4-3pp～参照
- 対策メニューの提案があれば、協議会での議論が深まり、新たな対策に取り組みやすい。
- **自然環境保全のために保護と利用のバランスをとって登山を続けるためにできる方策**を探る。
- 本検討会では、**現状で考えられる対策をメニューとして整理**しておくのがよい。
- (ハード対策を除けば、) 既に行われている対策は【**情報対策**】が中心である。
→「取り組みやすさ」、「緊急性」の結果?
- 対策の優先度の評価軸は、【**緊急性(即効性)**】【**実現性(取り組みやすさ)**】。
- 対策の検討にあたり、「あり方」で示されるビジョンの現状を把握し評価を行う段階が必要である。
 - 現状があり方で示す目標を満たしている → 現状の対策を維持
 - 現状があり方で示す目標を満たしていない → 新たな対策の検討が必要

- 「あり方」に示されるビジョンは短期間で変わるものではないが、**求められる対策は山の自然環境や利用状況の変化に対応しながら変化していく(させていくべき)**可能性がある。
- 様々な対策が考えられる中で、協議会と連携してその時点で最善と思われる対策をどのように選び対応すべきか? **重点的に関わるべき(企画立案していくべき)テーマを明確にし、そのプロセスを確立・継続**することが、新しい組織・しくみを継続させていくための要因の1つ。そのためには、**今後、対策を評価する視点・基準(緊急性+実現性=優先度?)を整理していく**必要があるのではないか。
- 現時点では、**現状(これまで実施してきた対策)を評価することから始める**必要があるのではないか。

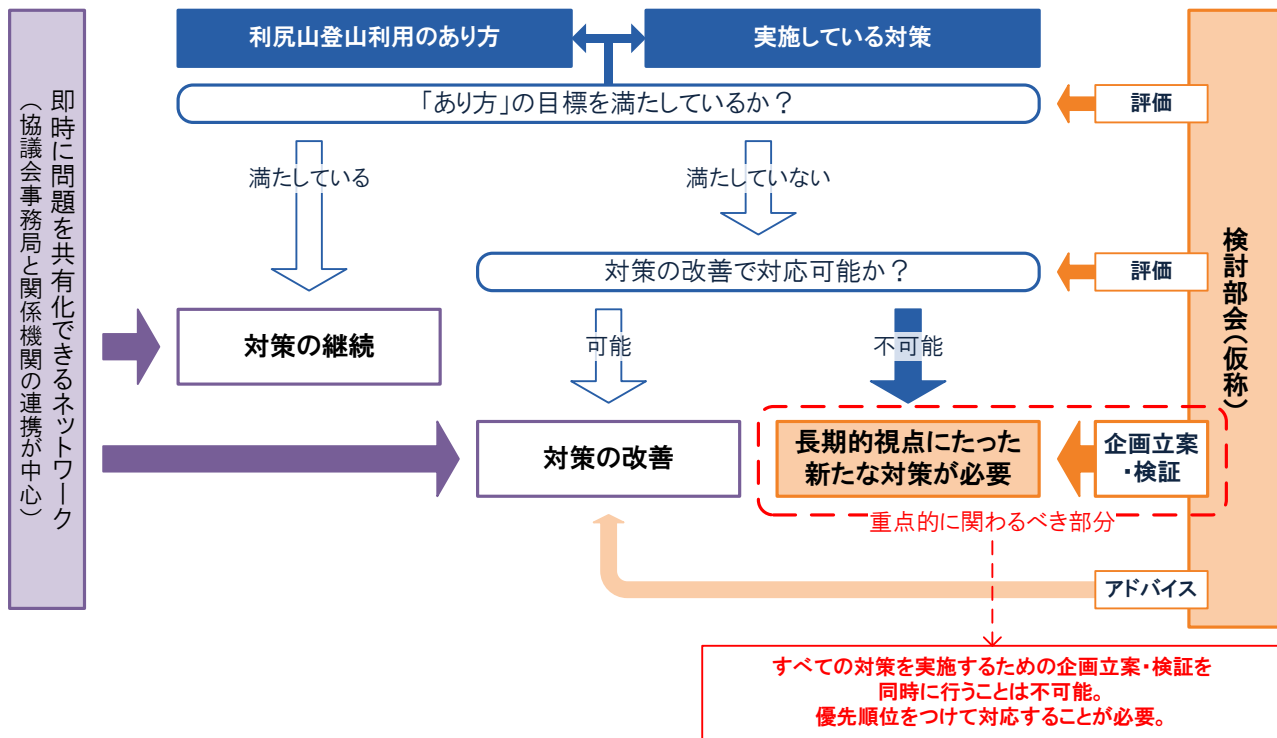


図 検討部会（仮称）が扱うべきテーマの抽出イメージ

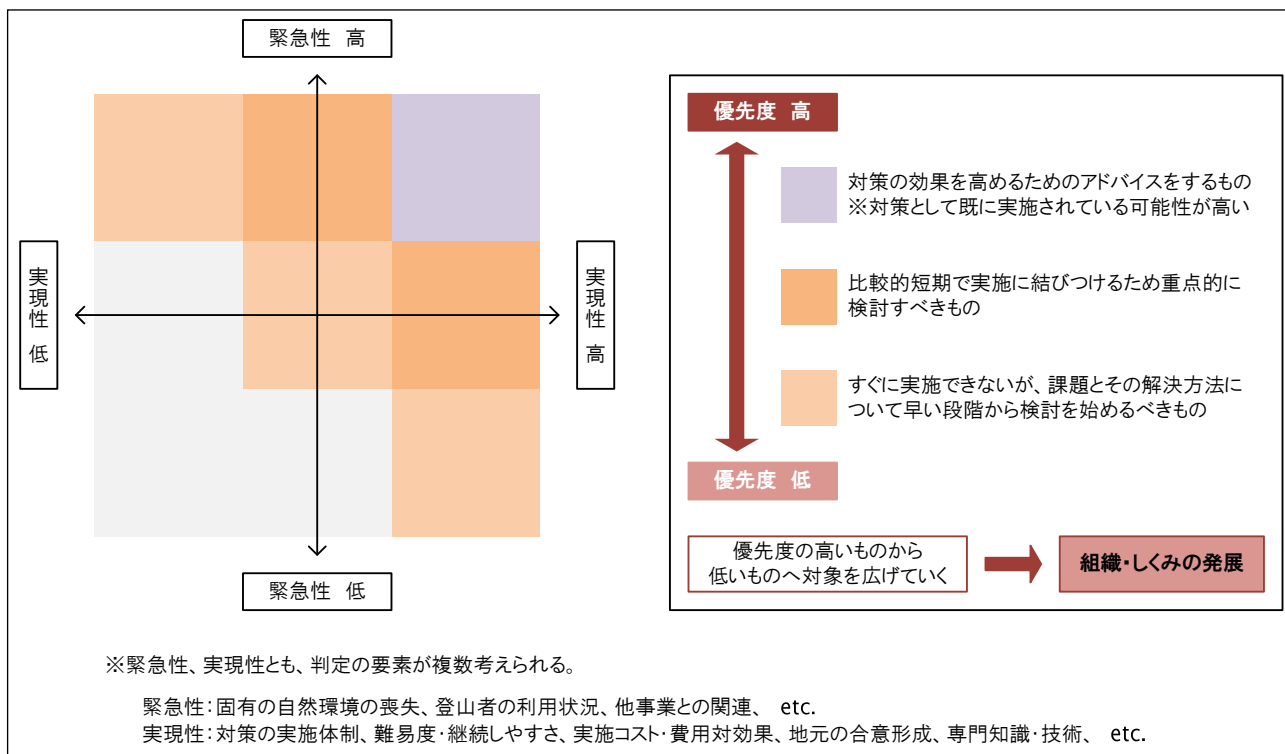


図 対策の優先度決定イメージ

課題解決に向けた対策案リスト

情報提供・普及啓発：情報提供内容の統一・情報提供経路の統一・地域の関心

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等
登山者に対する情報提供(現地)			
登山の頻度が高い地域関係者のハトロール員腕章の携行 ハトロールの常駐			
人の目に留まりやすい箇所への注意標識の設置	危険個所の明示による安易な進入の抑止、通過直前の引き締め		鷲泊コース合流点下部のみ、親知らず子知らずの注意標識は老朽化のため 解読不可。両コースとも登山口に危険個所の案内があるが、あまり読まれて いないと思われる。
崩壊の可能性に関する情報提供	危険個所の明示による安易な進入の抑止		主に合流点沓形側崩壊箇所について、各所情報掲示板、宿泊施設等にA3 サイズポスターを配布・掲示。各観光・宿泊施設等へのメール・登山情報ペー パーによる情報提供
登山口での電光掲示板等による通行止めの通知			
登山者に対する情報提供等(移動中・登山前の宿泊施設等)			
必要な情報が網羅された資料を宿泊施設で配布	環境配慮行動・安全・自然環境に対する事前認識、事前認識による適切な 行動、事前情報提供網のひとつ		登山情報を発行し、全旅館・観光施設に配布しているが、内容の充実度につ いては評価未実施。
登山者の装備・レベルの自己判断を促すチェックリストの導入		全ての宿泊施設で実施してもらえるかどうか	
フェリーターミナルでの情報提供(掲示板)	環境配慮行動・安全・自然環境に対する事前認識、事前認識による適切な 行動、事前情報提供網のひとつ	フェリーターミナルで情報を見てもらう工夫・しくみが必要	フェリーターミナル施設内に掲示板があるが、立ち寄り人は少ない
利尻島に向かうフェリー内での情報提供(掲示板、テレビ)		フェリー会社の協力を得られるかどうか	
利尻島に向かうフェリー内での案内・解説			
温泉・コテージ等での情報提供	環境配慮行動・安全・自然環境に対する事前認識、事前認識による適切な 行動、事前情報提供網のひとつ、事後情報提供網のひとつ		温泉施設掲示板に、一部の情報を掲示している
宿泊施設における適切なアドバイス	対面による情報の信頼性向上・啓発効果の向上、地域の環境意識・管理意 識の高揚		各施設による
登山計画書のチェック	安全管理、利用実態の詳細把握		各施設による
登山計画書提出の徹底	安全管理、利用実態の詳細把握	提出先を明確にすることが必要	宿泊施設では徹底されているが、宿泊しない登山者の計画書提出は個人に ゆだねられている。
宿泊施設における登山装備の貸し出し	安全管理、カスタマーサービスの充実		一部施設のみ
登山装備の販売	安全管理、カスタマーサービスの充実		備品のみ、一部施設で販売(携帯トイレ・キャップは全施設で販売)
登山者に対する情報提供(出発前)			
ハトロール員を中心としたブログ等による最新情報の発信	安全管理、カスタマーサービスの充実、適切な利用の誘導、利尻山の現状 PR		環境省HP、利尻町役場HP、利尻富士町観光協会ブログ、マルゼンHP、及び 不定期に島内関係者のブログに登山情報を掲載している
各種メディアと連携した情報提供・普及啓発の実施	安全管理、カスタマーサービスの充実、適切な利用の誘導、利尻山の現状 PR		昭文社山と高原地図には、09年度版から利尻ルールを掲載、その他危険情 報も最新の情報を掲載してもらっている
覚えやすいキャッチフレーズづくり			
遭遇する可能性のある危険や引き返す目安を掲載したガイドマップの作成	安全管理、カスタマーサービスの充実、適切な利用の誘導、利尻山の現状 PR		登山情報に記載
具体的な事故事例の公表			
旅行会社・登山ガイドへの情報提供			
旅行会社からの正確な情報の伝達要請	安全管理、適切な利用の誘導、利尻山における対策のPR、関係機関との連 携強化、適格なガイド・旅行会社の育成		「ツアー登山の配慮事項」にて利尻ルールの普及依頼等実施、その他、山中 で出会う旅行会社が「ツアー登山の配慮事項」を知らない場合は、下山後に 手渡ししている
旅行会社、ガイドに対する協力要請	安全管理、適切な利用の誘導、利尻山における対策のPR、関係機関との連 携強化、適格なガイド・旅行会社の育成	旅行会社の企画作成時期に合わせた情報提供が必要	「ツアー登山の配慮事項」(H19～H20)
地域住民の現状認識・関心の向上			
自然崩壊に対する地域の認識の形成	地域在住者の現状認識向上、長期的視点の形成		
広報紙を利用した地域住民に対する情報提供			
地域の学校登山における山の保全活動の導入		関係者の入念な準備・調整が必要	
地域の学校における利尻山に関する授業の導入			
観光ハイシーズン後の登山道維持補修作業の実施	登山道侵食の抑制、歩行性向上による安全性向上、作業員自身の意識高 揚、技術の習得		近自然工法による補修(GW事業)を実施しているが、参加者、知っている人 は一部に限られる
情報共有			
ハトロール員等の情報交換会・報告会の実施			
宿泊業者に対する勉強会の定期的な実施	各種対策実施における地域関係者との連携、地域在住者の現状認識向上、 長期的視点の形成、安全管理		H19年度から実施しているが、参加業者は一部のみ、実施内容についての評 価は未実施
外国人対応		外国人利用率・内容についての調査が不足	
情報の多言語化			
ピクトグラムを活用			

既に実施している対策
第1回検討会についてのアンケート結果等による新たな提案

利用コントロール

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等
保護を優先する箇所と適正な利用を優先する箇所のゾーニングの設定	登山道侵食の実態把握、将来実施される様々な対策の根拠となるデータの収集・蓄積	基準・根拠となるデータの継続的な蓄積が必要 利害関係者との意見調整・合意形成が必要 利用箇所における利用のあり方の検討が必要	登山道侵食量調査(H20～)、一部植生調査を継続中
ルートの付け替え		必要な調査を実施し、対策を選択する判断基準となるデータの収集が必要	
登山制限を実施する基準の設定		基準・根拠となるデータの継続的な蓄積が必要	
利用禁止・休止区間の設定		基準づくりが必要 宿泊施設、運輸機関への経済的影響、反発の懸念	
利用休止期間・時期の設定(植生回復目的、融雪期等)		利害関係者との意見調整・合意形成が必要 特定時期への登山者の集中を招く可能性	
天候条件による基準の設定		利害関係者との意見調整・合意形成が必要	
入山者数の上限の設定(統計情報に基づく、利用過大時期のみの1日当たり入山数上限設定)		利害関係者との意見調整・合意形成が必要	
登山前のレクチャーの実施			
レクチャー受講の義務化			
登山の事前予約制の導入			
ガイド同行の義務化			
ツアー登山時の配慮	安全管理、適切な利用の誘導、利尻山における対策のPR、関係機関との連携強化、適格なガイド・旅行会社の育成		「ツアー登山の配慮事項」(H19～H20)を発行、主要旅行会社・団体・学校等に送付
平日のツアー実施による登山者集中の緩和			
ツアー時のパーティサイズの小人数化(引率人数の上限設定)			
ソフトでの間接的利用コントロール			
混雑日予想カレンダー			
ソフトでの間接的利用コントロール手法の研究・実験			

連携強化

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等
利尻山登山道等維持管理連絡協議会の体制強化			
利尻山の管理を担う組織の設立・専門化			
ボランティア、NGO、山岳会によるサポートネットワークの形成	携帯トイレ(山のトイレ対策について)の普及啓発、清掃、携帯トイレ利用実態等データの収集・蓄積、関係機関の連携強化		山のトイレを考える会が、主に携帯トイレの普及に関する活動を実施(H13～)
ガイド紹介システムの確立	安全管理、カスタマーサービスの充実、適切な利用の誘導		各町観光協会からの紹介はある

データの蓄積・モニタリング

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等
情報公開			
「年報利尻山」の発行(基礎統計データ、会議内容・記録、山のできごとの記録・活動日報、関連文献等)			
調査研究資料の閲覧システムの構築			
会議等での議論の可視化(インターネットの活用等)			
山頂付近の植物等(固有種等)の調査の実施			利尻町立博物館・佐藤学芸員が一部実施
登山者ニーズ把握のためのモニター調査の実施			
定期的なアンケート調査の実施	利用者意識・利用実態の把握、利用者意識・利用実態データの蓄積		毎年何らかのアンケートを行っている
目安箱の設置(登山口・宿泊施設等)			
パトロール員による簡易な定点観測の実施	植生復元策検討のためのデータ収集・蓄積	確認項目の設定	H21年、植生調査の実施地点を設定(環境省)、設定については利尻町立博物館・佐藤学芸員、及び環境コンサルと相談の上、決定
		収集データの分析が必要	
地元の中高生の調査協力		関係者の入念な準備・調整が必要	

人材の確保・育成、費用の確保、環境保全活動の産業化

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等
島外からの人材確保		人材確保が難しい	
ボランティアの募集		ボランティアの負担(旅費等)が大きく、宿泊施設等の支援が必要 活動成果の検証とPRを継続的に行うことが必要 活動を企画・マネジメントするしくみ／人／組織及び受け皿となる施設が必要 通常イメージされるボランティア活動・地域活動で実施できるレベルの作業内容ではない	
登山ガイドの協力等による登山道維持補修に関するイベントの実施		ボランティアの負担(旅費等)が大きく、宿泊施設等の支援が必要	
自然環境をテーマに扱っている学校等の受け入れ		学校側のメリットの考慮	
ボランティアに対する地域関係者(宿泊施設、フェリー会社等)の支援			
民間企業のCSRとの連携		地域としての方針を明確にしておくことが必要 企業が「利尻山の環境保全」をテーマに選択する動機付け(地域の戦略)が必要	
地域での人材確保・育成			
地域の学校登山における山の保全活動の導入		関係者の入念な準備・調整が必要	
地域の学校における利尻山に関する授業の導入			
観光ハイシーズン後の登山道維持補修作業の実施			
費用の確保			
協力金・入山料の徴収(登山者の負担)		徴収方法について整理が必要	
入島税の徴収		利尻山だけでなく、利尻島全体の環境対策にも利用することが前提	
民間企業のCSRとの連携		地域としての方針を明確にしておくことが必要 企業が「利尻山の環境保全」をテーマに選択する動機付け(地域の戦略)が必要	
募金・基金の設立(利尻山ファンクラブ)		運営主体について整理が必要	
物販(利尻山オリジナルグッズの販売:男性用小用トイレポトル、記念バッジ、手拭いなど)		運営主体について整理が必要	
環境保全活動の産業化			

ハード対策

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等
関係機関との連携			
環境省直轄事業への提案、助言・相談		土木、植生復元についての技術・知識を有する人材の不足	
ハード対策の実施			
維持補修・植生復元作業の指導的役割		人材、人件費、資材費の不足	
ハード対策の評価			
整備・維持補修への評価・モニタリング			
人材育成			
維持補修作業の指導者育成			
各種ソフト対策との連動			
山の自然環境・崩壊状況の変化についての報告・連絡等を通じた順応的なソフト対策実現のための連携			
現場での登山者に対する作業員自身による解説			
各種調査への協力、調査機器の設置、荷物の運搬			
情報公開			
ハード対策についての情報公開・広報			
ハードでの間接的利用コントロール			
視線誘導など登山者心理に着目した見えざる利用者コントロール手法の研究と実験			